

尚徳

学校便り「尚徳」 5月号

第489号

鳥取大学附属小学校

平成25年5月17日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



新学期開始によせて

校長 平井 覚

4月7日の入学式に70名の新1年生を迎えて、新しい年度の新学期が始まりました。私にとっても、新1年生としての附属小学校長併任の勤務が始まりました。

私は若かりしころ、大学を卒業し大学院を修了した時点での理想の職業は、高等学校の美術科の教員でした。地元の高校の教員採用試験を受け続けましたが採用がなく、非常に短い間ではありましたが、中学校の講師、養護学校(特別支援学校)の教諭を経験しました。その後は、大学の研究者として勤務することとなり、約30年もの年月が流れました。短い間であったにもかかわらず、当時の中学校と養護学校(特別支援学校)の教育現場での勤務の経験は、今でも細部にわたって鮮烈に記憶に残っています。

教育実習を受けて以来初めて行った授業。職員室の雰囲気や先生方の顔。満員の通勤電車に乗って通勤し、目的の駅で降りるのに苦労したこと。新任教員として挨拶したときの言葉……。思い起こせばきり

がありません。

このたび、附属小学校の校長として赴任いたしました。大学教員と併任としての附属学校校長の最大の仕事は、附属小学校とその設立母体である鳥取大学との関係を円滑にするための潤滑剤、そして、関係を円滑にすることで、大学と連携しながら子どもたちの教育を深めるための接着剤としての役目であると考えています。また、それだけでなく、副校長先生と連携を密にしながら、子どもたちや保護者の皆様の支えになることができればと思います。

赴任してから感じることは、鳥取大学附属小学校の授業や児童の指導に関して、副校長先生以下、先生方が的確かつ確実にやっているということです。今後も、職員全員で、よりより教育活動の充実が図れるよう努めていきたいと考えています。

新たに4月から始まった附属小学校での経験が、数十年後にも細部にわたって鮮烈に私の記憶に残っているように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

入学おめでとう 1年生特集



4月8日、附属小学校に元気な70名の1年生が仲間入りしました。緊張した表情で花のアーチをくぐった1年生たちでしたが、やる気いっぱいむねをはり、とても立派な入学式になりました。そして、入学して1

か月、1年生はすっかり学校生活にも慣れ、新しい友達と笑顔でボール遊びや鬼ごっこを楽しんでいます。学習の準備をしたり、静かに並んで歩いたりする姿は、もうすっかり1人前の小学生です。まだ、登下校の安全など心配な面もありますので、保護者の方、地域の方の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

【学校っておもしろいね】

4月16日、2年生と1年生が手をつなぎ学校探検へ出かけました。入学して1週間の1年生は、行ったことのないいろいろな教室に興味津々。多くのことを発見しました。「ここは、靴を脱いで入るんだよ。」「職員室

は、失礼しますと言って入るんだよ。」と2年生もはりきって教えていました。図書館では、1年生に本の読み聞かせをしている2年生の姿に成長を感じました。これからも1年生に優しく、そして仲良く過ごしてほしいと思います。



